

齋王群行

見聞録

春のお祭りのシーズンを迎えました。市内でも地域の中で大切に引き継がれてきた数々のお祭りがあります。

今年で9回目になる土山齋王群行も甲賀の祭りのひとつとして大切に育てられています。私たちが参加して、私たちが見た土山齋王群行のレポート、名付けて『齋王群行 見聞録』です。

私たちが
レポートしました
まちかど
特派員

杉山祐子◎富田聡美



◎茶園の中を行く隊列

齋王さんって？

平安の時代から天応が即位されることに、天皇の御名代として伊勢齋宮の天照大神のもとへ御杖代に遣わされた未婚の皇女または女王のことです。

※御杖代……大神に奉仕する者
※皇女……天皇の姫君
※女王……天皇の兄弟の姫君

齋王群行って何？

齋王が選ばれると、齋王は心身を清めるため3年間の齋齋の生活に入られ、その後天皇との別れの式にのぞまれ、伊勢の齋宮御所へ旅立たれます。この旅

まずは基本知識を…



廣沢会長にインタビュー

あいの土山齋王群行実行委員会
会長 廣沢 晃さん

●齋王群行を始めたきっかけは？

「頓宮」とは、齋王さんが京より伊勢へ旅をされる時の仮の宿のこと、この地にあったことから地名になっています。地元の人たちは平安時代から跡地を守り遺してきました。小さな町の貴重な史跡。そのことを夢とロマンいっぱい群行の再現によって広く知ってもらおうと、町一体となって取り組むことにしていただきました。

●市民の皆さんにひとこと

本年も多くの方々にお力をいただき、第9回目の群行を無事終えることができました。十年以上も前にみんなで描いた「雅の郷」の町づくりのひとつが群行でした。各地に残っている地名・伝説・文化財等への興味や関心からも地元甲賀への愛着がさらに深くなるのでは……。

には、数百人のお供の人たちが付き添う大集団の旅であるので「齋王群行」と呼ばれています。齋王は十二単衣をまとい、御腰輿に乗って群行されました。

なぜ土山に関係があるの？

齋王が群行で宿泊されたところを頓宮といい、京の都から伊勢まで5ヶ所（勢多、甲賀、垂水、鈴鹿、逸志）の頓宮が置かれ、群行が行われるごとに新たに建造され、群行が終わるとすぐ解体されました。この土山の垂水頓宮は永年地元の人たちにより、大切に保存されてきたおかげで、唯一の頓宮跡地であることが実証され、「国の史跡」に指定されています。

けを強めると、汗と汚れを吸う効果があるということ……ボランテアの方も「今とは化粧の方法も素材も違うので、1回しか見ずに実践するのは難しいですが、とても興味深く応募しました。」と真剣な表情で練習されていました。

◎化粧の手順

髪付け油というピン球大の固形の油を、掌で転がして顔に塗る。
目の周囲を中心に、赤い下地を塗る。
ハケで水おしろいを塗る。（ペンを塗りながら感じる感じ。けっこう冷たい）
赤と黒を巧みに使って、優しい感じに仕上げる。

あとながき

★平安装束で松並木を歩くと、200年前にタイムスリップした気分でした。齋王さんはどんな気持ちでこの道を行かれたのかと、当時に思いを馳せていると……。「この歌がさいごうきんって言うてんのかなあ。」と会話する写真愛好家の声。「あ、さいおきうなんですけれど……。」とつっこみそうになるも、群行中はガマンです。大勢の人がカメラを持っていたりして、他人の庭や畑に勝手に入って撮影する人もいるのだとか。みんなが楽しむお祭りが台無しですね。撮影はマナーを守ってお願いしませう。それはさておき、齋王を中心に、齋王の世話係から沿道を警備する人まで、本当に多くの人によって群行が行われていることを知りました。それはきっと今も昔も同じで、「歴史って、そこに生きる人みんなが作っていくものなんだ。」と思いました。

甲賀の歴史を作るのも「私たち一人ひとり」なのでしよう。★雅やかな平安装束を再現するこの「あいの土山齋王群行」は毎年3月下旬に土山で開催されます。隊列の一員として平安装束を身に着けてみるのもよし、化粧着付けのスタッフとして参加するもよし、同時に開催される齋王群行写真コンテストに応募するもよし、また齋王群行について約4キロの道をウォーキングするもよし……いろいろな形で雅やかな平安王朝の古代ロマンに浸れるこの齋王群行に来年はぜひご参加ください！

当日スケジュール

◎8時 集合

同窓会館の重みのある引き戸を開けると、衣装がきちんと揃えられていて、ドキドキ。先生やボランティアの方々に挨拶するときに緊張感が、足袋と襦袢に着替えて、さっそく化粧・着付けの開始です。

◎10時 昼食

準備の整った人から早めの昼食。群行中はトイレに行けないので、カプリメイトやバナナなどの食べやすい物と、少しのお茶をいただきます。

◎11時30分 準備完了

美しい齋王さんを、少しだけ早く拝見。みんなも平安美人？になって出発です。

◎12時 禊ぎ式

齋王さんが校庭内の小川に人型を流す儀式。雅楽が演奏され、ゆたかりとした時間が流れていました。

◎12時30分 お発ち式

これから群行の始まりです。かわいい5人の童女（わらわめ）ちゃんがお発ち舞を披露。市長さんもしっかり官人になりきってご挨拶です。

◎途中休憩X2回

休憩所では、道中の無事を祈る道中舞の披露。多くの人の前で踊るのは初めてなので緊張しました。（みんなと揃って踊れたかなあ……）

◎15時30分 頓宮到着・呈茶の儀

終盤、雲ゆきが少し心配でしたが、無事に到着。お着き舞の後、呈茶の儀がありました。何人も確認してから、やっと齋王さんの元へ運ばれます。齋王さん、土山のお茶の味はいかがでしたか？

◎16時 終了

帰りはバスで会館へ。皆さん、お疲れさまでした。

舞台裏をのぞいてみよう

◎舞の練習

伊瑛谷・北林両先生の指導で、2回行われました。長旅の無事を祈るそれぞれの舞。2回目最初にいきなり踊ってみたら……。「思ったより覚えていたね。(^^)」と、先生。でももう一度おさら

◎化粧・着付け

京都で伝統文化を継承しておられる南先生・松下先生が担当。廣沢会長さんが「衣装などはすべて本物にこだわって作ってあります。どうぞこれを着る皆さんも本物であるよう頑張ってください。」と激励してくださいました。事前の講習会では単なる衣装・着付けにとどまらず、先生方の知識をいろいろ教わりました。紫の袴は未婚の女性で、何でも右から始めるのだということ、今でも「祭主」という名でまつりごとをされる方がいるのだということ、衣装にのりづ

◎草履を履かせてもらう童女（わらわめ）



第9回 あいの土山齋王群行写真コンテスト開催!

期間：6月24日(土)～7月23日(日)
10:00～18:00
(ただし月、火、祝日は休館)
場所：土山歴史民俗資料館

